

京都が誇る世界の任天堂

橋本 弓

(2018 年度入学 鈴木ゼミ 2 期生)

京都はおよそ 1200 年もの間、日本の都として栄えた土地だ。今でも歴史のある建造物が多く存在し、「和」を感じられる場所として国内外から人気を集めている。世界に誇る京都としてもう 1 つ挙げるとするならば、私は迷うことなくゲーム会社の「任天堂」を選ぶ。任天堂は、あらゆるゲームメーカーの中でも最も長い歴史があり、国内外を問わない人気ゲームを数多く生み出し、世界中に感動を与え続けている。私もその中の 1 人だ。任天堂のゲームで思わず涙を流したこと、父との思い出を作らせてくれたこと。思い返してみれば任天堂のゲームは、クリア時の達成感だけでなく、「思い出」として私の中に残っている。



任天堂の歴史～花札からゲーム開発まで～

任天堂は、1889 年（明治 22 年）に創業した歴史のある会社だ。現在は自社独自のハード・ソフト一体型のビデオゲームを開発・発売するメーカーとして有名。元々は花札やトランプなどのカードゲームを生産する会社として創業していた。1960 年頃、社会情勢では多角経営が流行し、任天堂も乗り出そうとした時期があったが失敗したため即座に切り上げている。その後はバブル崩壊まであらゆる大企業が様々な分野に手を出していた中、任天堂は玩具専門を突き進んだ。そうして生まれたのが、1983 年に発売された伝説「ファミリーコンピュータ」。さらに「ゲームボーイ」「スーパーファミコン」を世に送り出し、ゲーム業界での地位を確立した。

～ゼルダの伝説「Bless of the Wild」～



ゼルダの伝説は世界中にファンを持つ任天堂のビッグタイトルシリーズだ。最初の作品は 1986 年に発売された「ゼルダの伝説」まで遡る。基本的なストーリーはプレイヤーの分身である主人公「リンク」が「ガノンドロフ」という敵からハイラルの姫「ゼルダ」を救う物語だ。私はシリーズの中でも RPG 界の最高傑作を謳われる「ブレスオブザワイルド」が大好きだ。理由は大きく分けて 3 つある。

まず 1 つ目は「当たり前を見直す」という作品のテーマだ。固定のファン数が多いタイトルはそもそも大きな冒険をしない傾向がある。既存のファンに受け入れてもらえず、炎上することも少なくないからかもしれない。その中で今までの当たり前から大きく外れた大成功が「ブレスオブザワイルド」だ。任天堂の良いところに、繊細にファンに寄り添う姿勢が挙げられる。開発者の一人走りにならず、既存のファンに寄り添う細かい部分と新たな試みが多くの人を魅了した。

2 つ目は圧倒的な自由さと絶妙な制限。この作品は従来作品と大きく異なり、オープンワールド、つまり、見える範囲全てに行くことができる世界が導入された。ストーリーに沿って進めるのが RPG の王道だが、物語の進め方でさえ個人に委ねられている。大枠の自由さを引き立てるのが細かい制限だ。武器や体力、薬や料理など、広大な世界を自由にプレイするためには様々な工夫が必要となってくる。

最後に私のいちばんのお気に入り、グラフィックと音楽の美しさだ。水彩タッチの草木は柔らかく風に揺れ、夜明けには朝露に濡れてキラキラ輝く。雨の日は、走ると水たまりの跳ねる音が聞こえ、岩肌は艶やかに。砂漠の空気は乾いているし、雪が積もる山の空気はツンとしているように感じる。今作でのオリジナル曲はもちろん、前作やシリーズお決まりの曲が所々に組み込まれているのを探すだけでも楽しい。ピアノ中心の音楽がフィールド上に溢れ、天気や時間帯によって優雅に移り変わる様には

思わずうっとりしてしまう。散歩をするために、音楽を聴くために起動するゲームは私にとって初めてだった。



～Nintendo Direct～

任天堂の社員が案内人として登場し、文字通りダイレクトに任天堂のハードやソフトに関する新情報を発信する番組だ。発表内容は全世界に向けてのものであるケースが多く、YouTube のチャット欄などでは世界中の任天堂ファンと同じ興奮を共有することができる。放送の前には各々が望む発表内容の予想が Twitter のトレンド上で大いに賑わい、そして時間の数分前からみんなでじっと画面を見つめる。有名なゲーム実況者は自身のチャンネルでファンと共に発表を観賞することもあり、その際のリアクションがファンをさらに沸かせる。

私の夢の一つに、ニンテンドーニューヨークで放送を見ることがある。任天堂の直営オフィシャルストア「ニンテンドーニューヨーク」は、放送を大きなスクリーンに映し出し、ぎゅうぎゅうに集まった外国人が発表内容に対して激しいリアクションをとることで有名だ。大盛り上がりで抱き合いながら、手を叩きながら大好きなゲームの情報を待つのはどれだけ幸せなことだろう。



大学受験、私はセンター試験で出鼻を挫かれ、もうどうにでもなれと思っていた時期があった。当時の私を救ってくれたのが、ゼルダの伝説のトレーラーだ。美しい世界観と音楽に惹かれ、それだけで必死になろうと思えた。今でも、Nintendo Direct は欠かさずに見る。夜中であっても、明け方であっても。京都が誇る世界の任天堂に、この先もずっとワクワクしていきたい。

参考文献

<https://dic.nicovideo.jp> > 任天堂任天堂とは（ニンテンドウとは）[単語記事] - ニコニコ大百科

<https://dic.pixiv.net> > 任天堂ウェブ検索結果任天堂（にんてんどう）- ゲーム - ピクシブ百科事典

<https://gamepedia.jp> > Switch > 特集次回のニンテンドーダイレクトは？過去の配信日と内容一覧【ニンダイ履歴まとめ ...